

令和5年12月21日

第1回遠野市総合教育会議 会議録

遠 野 市

令和5年度第1回遠野市総合教育会議 会議録

- 1 開催場所 遠野市役所本庁舎 3階大会議室
- 2 開催日時 令和5年12月21日（木） 午前10時から午前11時13分まで
- 3 出席状況

○ 出席者

市長 多田 一彦
教育長 佐々木 一人
委員 菊池 崇
委員 菊池 和子
委員 藤山 重理子
委員 小玉 淳浩

○ 職員

教育部長 伊藤 貴行
総務企画部長 鈴木 英呂
健康福祉部長 菊池 寿
市民センター所長 海老 寿子
教育委員会事務局学校教育課長 齋藤 真
教育委員会事務局学校総務課長 多田 清子
学校給食センター所長 菊池 今英

開会・開議 午前10時

1 開会

○教育部長

ただ今から令和5年度第1回遠野市総合教育会議を開会いたします。

私は、教育部長の伊藤でございます。本日の会議の進行を務めさせていただきます。よろしく願いいたします。

本日は、市長、教育長、教育委員全員に出席していただいております。

それでは、はじめに市長からご挨拶をいただきます。

2 市長挨拶

○市長

令和5年度第1回遠野市総合教育会議の開催にあたりご挨拶申し上げます。教育委員の皆様には、平素から子どもたちの教育の充実発展のために大変なご尽力を賜っております。心から感謝申し上げます。

国は、この4月にこども基本法の制定やこども家庭庁の発足など、子どもに関する取り組みや政策を我が国、社会の真ん中に据えて、強力に進めることを急務としております。このことから、本市ではこれまで以上に国・県との連携を深めた子育て支援施策の展開を進めております。

一方で、こども家庭庁の異次元の少子化対策の方針ですけれども、異次元にお金がないということですから、予算を要求した瞬間に予算がないという返事が返ってくるという状況が続いております。

現在、建築中の松崎の児童センターも同様でした。その瞬間、遠野市ではすぐに総務企画部長が国へ出向き、交渉を始めて、私も1日遅れで追っかけて予算を取りに行くというような行動をして、何とかもぎ取ってくるというようなことをやりながらですね、こちらも異次元の動きをしなければいけないというところを頑張っているところです。最近は、少し余裕が出てきたようですけれども、以前、申請すると、ノーという回答が続くということは従来通りです。この中で国ともうまく連携を取りながら進めていこうということが方針であります。

総合教育会議は、教育委員会の皆様と市長部局が力を合わせて課題を共有して、子どもたちにとって本当に何が必要なのか、大事なのかということ、同じテーブルで議論する場ができたということでございます。大変有意義だと思いますので、ご忌憚のないご意見をよろしく願いいたします。

本日の会議の報告事項は、教育委員会学校教育課から1件、未来づくりサポート室から1件です。

今年の4月に実施しました学力と学習状況の調査の結果をまとめ、「遠野市小中学生の学力及び学習の状況について」、令和5年度に教育改革の一環として実施しております「未来づくりサポート大作戦の実施状況について」もご報告をさせていただきます。

協議事項については、1学年100人時代を見据えた学校規模の適正化の検討を進めるため、「多様な教育活動について」、議題とさせていただきます。

どんどん前倒して、相談するべきところは相談する、見える課題は先に先に話をしていく、そしていいことばかりではなくて、とても問題になるようなことも、実際には現実的には起こりうるし、起こっている部分もあると思いますので、この場は本当に貴重な場なので、皆さんの貴重なご意見等いただければと思います。

限られた時間の中で、ご多忙の中お集まりいただきまして本当にありがとうございます。どうぞよろしく願いいたします。

○教育部長

ありがとうございました。

ここからは遠野市総合教育会議設置要綱の第4条第1項の規定により、市長が議長となりますので会議の進行をよろしく願います。それでは、市長願います。

3 報告事項

(1) 小中学生の学力及び学習の状況について

○市長

次第に従い3の報告事項から進めてまいります。「小中学生の学力及び学習の状況について」を担当から説明をお願いします。

○学校教育課長

学校教育課長の齋藤真です。よろしく願いいたします。

私からは、遠野市小中学生の学力及び学習の状況について説明させていただきます。

はじめに、毎年4月に実施されております全国標準学力検査、NRTの数値について説明いたします。本市においては、このNRTの数値、総合平均学力表偏差値をまち作り指標としております。今年度の数値につきましては、資料の表のとおり、小学校は目標値を3ポイント、中学校は1.9ポイント下回る結果となりました。

次に、校種別の教科ごとの数値を見てまいります。まず、小学校です。昨年度の数値と比較し、理科は1.7ポイント上昇、その他の教科は昨年度を下回る結果となりました。国語、算数については、標準偏差値50まであとわずかというところですが、社会

については、昨年度に引き続き、標準偏差値を大きく下回る結果となり、早急な授業の見直しが必要と言える状況です。

続いて、中学校になります。全ての教科において、昨年度の数値を下回る結果となりました。特に理科と英語については、標準偏差値50を大きく下回っており、早急な授業改善等の取り組みが必要な状況です。

続いて、今年度の岩手県学習定着度状況調査、全国学力学習状況調査の質問紙調査の結果について説明をさせていただきます。県学調の児童生徒質問紙調査の「学校の授業の内容はよくわかりますか。」という質問に対し、本市の小学校では88%の児童が、中学校では78%の生徒が肯定回答をしております。これは、県の肯定回答率を上回っており、本市の小・中学校で行われている授業に対し、非常に多くの児童生徒が授業の内容はよくわかると感じていると捉えることができます。

また、学校質問紙調査における「児童生徒の間違いを認める雰囲気を作り、その中で授業を進めていますか。」という質問項目に対して、本市の小中学校は14校中13校が積極肯定の回答をしております。積極肯定ではなかった小学校1校についても、どちらかといえば作っているという肯定回答しており、14校全てで児童生徒が学びやすい雰囲気の中で学習を進めている状況であると言えます。

一方で、「学校の宿題に加え、補充のための学習や発展的な問題に児童生徒が自ら取り組める工夫をしていますか。」という質問項目に対しては、積極肯定回答した学校が7校、半数にとどまり、各校における家庭学習へのアプローチが不足している状況であることが浮き彫りになりました。全国学調の児童生徒質問紙調査の結果からも、家庭学習の取り組みに対する課題が見えてきております。

「学校の授業時間以外に、平日、どれくらいの時間勉強をしますか。」という質問項目に対し、小学校では2時間以上の家庭学習に取り組んでいると回答する児童が全国と比較して4ポイント下回りました。中学校では、全国との差がさらに開き、平日2時間の家庭学習に取り組む生徒は、全国と比較してマイナス19.8ポイントとなっております。部活動加入率や通塾率の差も大きく影響していると考えられますが、毎日の部活動がある中で、家庭学習の時間をどのように確保していくのかを考え、学校と家庭が連携して取り組んでいく必要があります。

さらに、学校質問紙調査の「教育活動全体で話すこと、書くことなど、言語活動の指導の充実および徹底を図っていますか。」という質問に対し、積極肯定回答した学校は7校、半数にとどまる結果となりました。言語能力は、学習指導要領において、学習の基盤となる資質能力の一つに位置づけられており、県の確かな学力育成プロジェクトにおける全県共通取り組みの一つにも、言語能力の育成が位置づけられております。

本市においても、学力向上アクションプランの重点項目、重点取り組みとしていることから、教育課程全体で言語活動の指導の充実を図っていく必要があると考えます。

言語能力の育成に課題が見られることにつきましては、全国学調の教科調査の結果からも明らかとなっております。各教科において、全国と比較して、本市児童生徒の正答率が低い問題を見ますと、国語においては自分の考えが伝わるように書き表すこと、自分の経験や知識に触れて書くこと、これらに課題が見られます。算数・数学においては、記述式の問題や、数学的に説明する問題に課題が見られます。また、英語においては、書くことの領域全般、文と文の関係や情報などを正確に読み取ることなどに課題が見られます。これらの結果からも、各教科の学習の基盤となる言語能力を確実に育成していく必要があります。

以上の現状を踏まえ、今後の方向性として、3つの取り組みを重点的に推進してまいります。1点目は、資質能力の確実な育成に繋げる授業改善の推進です。育成を目指す資質能力と評価基準を明確にし、目標と指導と評価の一体化が図られるよう、授業改善をさらに推進してまいります。2点目は、家庭学習の質と量の充実です。家庭学習の目的と課題意識を明確にし、授業で身につけた力を確実に定着できるよう、ドリルソフトなどを活用しながら、家庭学習の質と量の充実を図ってまいります。3点目は、学習の基盤となる言語能力の育成です。各教科指導における言語活動を充実させるとともに、今年度4月から全市小中学校に導入した新聞教材ワークシートの取り組みを通して、児童生徒の読解力向上を図ってまいりたいと考えております。

以上で、本市小中学生の学力及び学習状況に係る説明を終わります。

○市長

小中学生の学力及び学習の状況について、担当から説明させていただきました。委員の皆様からご質問、ご意見お願いします。ここ大事なところだと思っておりますので、どうぞよろしくお願いします。

この全国標準学力検査の実施日はいつですか。

○学校教育課長

全国標準学力検査日は4月になります。検査結果は令和元年から令和5年までありますが、全て毎年4月に行っております。

○市長

今年の4月の結果ということでもあります。

はい、どうぞお願いします。

○小玉淳浩委員

言語活動の指導についてですが、中学校の取り組みが今年度ゼロになっておりますが、これは何か取り組めない理由はあるのでしょうか。

○学校教育課長

積極肯定ということで、特に力を入れて取り組んでいますよという回答がゼロだったということで、全くやってないということのゼロではございません。肯定回答というのがありまして、そちらの方では丸がついておりました。

○小玉淳浩委員

はい、わかりました。

○市長

でも、これは肯定してやらなきゃ意味ないですよ。やらなきゃならないわけだからやらなきゃないですよ。

学校教育課長が説明したように全ての学科に基本になりますよね。

言語できない人は数学も英語もできないですよ。国語はもちろんのこと、これやらなきゃないですよ、基本として。そこのところ強く指導していかなきゃいけないと思います。

他に皆さんどうぞ。

○藤山重理子委員

家庭学習の質と量の充実の中で、ドリルソフトの活用という説明をしていただきましたが、具体的にはどういった教科をドリルとして予定していますか。

○学校教育課長

教科としては、算数と国語になります。ドリルソフトについて、若干説明をさせていただきます。このドリルソフトは、子どもたち1人1台端末を使って、授業を行ったり、それを家庭に持ち帰って、家庭学習で活用しております。その1台端末の中にドリルソフトが入っております。子どもたちが自分でどの問題に取り組みたいかを選んで、その難易度も選択しながら取り組むというようなソフトになっています。そのような1人1台端末を家庭学習で持ち帰りさせるということを通じて、家庭学習の時間を増やしたり、同じプリントが子どもたちみんなに渡るというのではなくて、それぞれ自分で必要な力に応じた問題に取り組めるような質の調整を図ればということで、今、活用を図っているところでございます。

○菊池和子委員

言語活動の充実ということで、言語活動は全ての教科の中、学校教育活動の中、全てで行われるものだと思います。

それで、今、落ちている部分について、教科の中のそういう考え方や話の組み立てや論の展開の仕方とか、技術として必要なものが落ちているのか。それとも経験値で落ちているのかとか、そういう分析はされたことはあるのでしょうか。

○学校教育課長

具体的な分析については行っておりませんが、委員おっしゃった通り、考えられるのは、言語活動自体がコロナの状況の時に子どもたち同士が机を合わせてとか、隣同士でとか、グループ活動でというような機会が制限されていたというのは一つ要因として考えられます。

その後、アフターコロナで回復してきている部分もございますので、そういう具体的な方法だけではなくて、内容のところについても子どもたちの力を上げていく必要があると思います。

子どもたちが知識を授業の中で学ぶ場面というのはたくさんあります。そして、自分の頭の中にインプットする、入れていくというようなことはどの学校でも取り組まれていますけれども、今後、必要なのは、自分の頭の中に入れた知識を思考しながら、判断しながら、表現していくというアウトプット。これが言語活動の育成に繋がっていくのではないかなと考えているところです。分析については、今後検討してまいりたいと思います。

○市長

言語というのは学校だけじゃなくて、最初に家庭で教わってくるものだと思います。家庭での言語教育ということも、やっぱりしっかり考えなきゃいけないことではないかと思います。

和子委員の先生としての豊かな経験の中で、そこについてはこういう感じで考えたかどうかというのを何か、その延長でございませぬか。

○菊池和子委員

やはり家庭の中でも学校もそうですけれども、人の考えをまず聞いて理解するということから多分始まると思います。論法だけじゃなくて、いろんな場面で、そういう考えもあるのだということをきちんと把握した上で、こういうふうにするにはどんな材料を選んで話をすればいいんだろうとか、そういう具体的な手立てを教えるところが学校なんじゃないかと思っていますので、いろんな経験をすること、家庭内でいっぱいお話すること、それから、地域の中で子どもたちもいっぱい話す機会があった

り、子どもたちの考えも吸い上げてくれるようなところがあるとか、そういうみんな
で考える部分が必要かなと思っています。

○市長

ありがとうございます。
他にございませんか。

○菊池崇委員

この報告で、自分たちがよく理解しているということに対しては、ポイントが県よ
りも高く出ているということが分かりましたけれども、それでも若干ポイント数が落
ちているというところがございます。ここに関して、授業が分からないという生徒に
対してのフォローアップは、具体的にどのようなことをやっているのかという質問で
す。

○学校教育課長

子どもたちが授業の中で分かるというところまで、自分で感じて持っていけるとい
うような結果は出ております。

ただ、それが本当に分かっているというような理解に繋がっているのか、それと
も、分かった気になっているというところに繋がっているのかという部分は、もちろ
ん授業の中でも、授業の最後の部分で確認は必要ですが、その授業の中で分かるとい
う理解の部分をいかにできるに繋げていくかが大事なポイントだと思っております。

そのできるに繋げていくために、先ほど申し上げました家庭学習の質の充実、ドリル
ソフトだけではなくて、もちろん今日勉強したことの振り返りという授業と家庭学習の
連動を学校では図っているところでございます。

ただ、授業と家庭学習の連動を図りながらも、様々なところで学習習慣がなかった
り、家でなかなか集中して勉強できる時間がまだ習慣としてついてないというような
子どもたちのために、未来づくりサポート室で放課後学習教室が開かれております。
子どもたちは放課後学習教室でできる、授業で分かる、理解をしたものをできるとい
うところに結びつける機会になっているかと思えますし、あとは放課後学習教室に参
加することで学校が終わった後、勉強する習慣も少しずつ身につけてきているのでは
ないかと思えます。そのようにして、フォローアップを図っていきたいと考えており
ます。

○菊池崇委員

インプットとアウトプットの話ですけども、先日ちょっと教育委員会定例会でも出
ましたけれども、要はインプットの練習は野球で言いますと、素振りをして良い素振

り、スイングができる。ただ、実際ボールを打ち返すということ、試合に勝つためにそのボールを打つということは、まだ子どもたちはできていない段階にあるということなので、やはりそのアウトプットのところ、ボールを打ち返す練習だったり、それを言語であったり、テストであったり、説明力であったりとか、そういうところを今言われた放課後学習とかフォローアップしていけば、もう少し充実していくのかなというところは、今の説明で感じられたところです。ありがとうございました。

○市長

他にございませんか。

なければ、次に進んでいきたいと思えますけども、非常に貴重なご意見いただいたと思います。

家庭学習、これの重要性は市も教育委員会委員の皆さんも思っているところで、そこをどのようにしていくかというところが非常に重要だと。そして、それを応用して伸ばしていくのは、学校の役割というふうに考えられる部分もあると。そうすると、インプット、これは大事だけど、アウトプットする。要するに、素振りからバッティングに切り替える。それは言語の中では発表能力や自己表現とか、そういう部分をもっともっとしていかなければいけないのではないかということだと、私なりに理解しました。

このへんを参考にさせていただきながら、また次に進めていけるようにと思えます。岩手日報にも掲載されましたが、公営塾が始まりますし、市内11校のうち9校で放課後の学習を始めているというところで、教育委員会でも、この改善に非常に全力を挙げていく。そうすると今年やってきて、来年4月の検査、これが楽しみになるようにしていきたいと思えます。

次の報告事項で、未来づくりサポート大作戦の実施状況について、担当から説明させていただきます。

○未来づくりサポート室長補佐

未来づくりサポート室長補佐の松田健一です。

未来づくりサポート室からは、資料No. 2の未来づくりサポート大作戦の実施状況について報告します。

4つの柱があり、1つ目は学力向上、2つ目は不登校対策、3つ目は高校魅力化サポート、4つ目はグローバル人材育成です。

はじめに、1つ目の学力向上を説明します。取り組み内容としては2つあり、1つは放課後学習支援、もう1つは公営塾になります。

1ページ目をご覧ください。放課後学習支援です。放課後学習は、令和5年度からの取り組みになります。放課後学習の目的については、授業で学習した内容につい

て、放課後学習等の支援を通して、確実な定着、さらには家庭学習へと繋げていくことです。現在の状況としては、市内11校のうち9校で開催しています。残る2校についても、実施に向け準備中で、今年度中には全校で実施予定でございます。内容としては週に1回30分程度、算数に取り組む学校が多数です。学習ボランティアの延べ参加者数は51人で、有償ボランティアとして報酬及び旅費を支給しています。学習ボランティアの概要については記載の通りでございます。2ページ目は小友小学校の放課後学習の様子を載せております。小友小学校は週に1回、全員参加で算数の教材学習に取り組んでいます。3ページ目には青笹小学校の放課後学習支援の様子を載せてあります。青笹小学校は週に1回、希望者で宿題に取り組んでいます。

4ページ目をご覧ください。学力向上のもう1つは公営塾です。こちらも令和5年度からの取り組みになりますが、目的については、都市部との学習機会の提供の格差是正を図り、学校の授業を中心とした内容について児童生徒の学習サポートを目的としています。今年度はトライアルとして2つ取り組みます。1つは冬休みに中学校3年生を対象として、高校受験対策講座を2日間、4会場で行います。申し込み状況は55人で、割合は27%です。もう1つは、春休みに小学校5・6年生を対象に2日間、4会場で行います。今回のトライアルの結果を受け、令和6年度に小中高での本格実施に向け検討をいたします。

5ページ目をご覧ください。2つ目の柱の不登校対策として、ジョイントスクールの取り組みになります。目的としては、国や県でも不登校児童生徒は増加していますが、当市においても増加傾向であることから、各中学校区に不登校児童生徒の居場所を作り、当該児童生徒の学校復帰を支援することです。活動場所になりますが、かりん教室の他に西中学区にぎんが教室、東中学区にしらかば教室を新たに設置しました。支援体制はご覧の通りです。ジョイントスクールの利用状況については、令和5年度はかりん教室8名、ぎんが教室4名、しらかば教室4名の合計16名であり、対前年比13名増で、取り組みの成果が出てきている状況です。6ページ目には各教室の写真を載せてあります。

7ページ目をご覧ください。3つ目の柱は高校魅力化サポートになります。入学者数の状況については、遠野高校、遠野緑峰高校ともに減少傾向です。市内中学3年生の生徒の推移については、令和5年度は204名ですが、令和11年度から約150名の生徒に推移していきます。現状と課題ですが、市内の生徒数が減少する中、高校の募集定員に対し、安定した充足率を目指すなら、市内中学生の地元高等学校への進学率の向上の他、一定数、市外から入学者数の確保も必要となります。8ページ目をご覧ください。今年度10月から下宿等への支援を始めております。下宿先の受け入れ支援と保護者生徒の経済支援です。どちらも生徒1人につき月額1万円を上限とし、補助するものです。下宿先の受け入れ支援としては、エアコン等の住環境の整備や食事のサポ

ートを必要とする場合において活用することができます。合わせて、下宿バンクとして、下宿の情報を市のホームページで情報発信しています。

9ページ目をご覧ください。4つ目の柱はグローバル人材育成です。グローバル人材育成の取り組みの一つは、英語で遊ぼうEnglishキャラバンin児童館です。今年度から取り組んだ事業であります。目的は、グローバル化に対応できる人材を育成するため、世界中の人とのコミュニケーションの手段として確立している英語が重要であると捉え、子どもたちの英語に対する興味関心を引き出すような遊びプラス英語をコンセプトに、楽しみながら学べる異文化体験活動を展開しています。対象は、市内児童館児童クラブを利用する児童です。講師については、市内に在住する日本人講師と外国人講師がタッグを組んで活動しています。活動内容については、週に1回、市内の児童館児童クラブを巡回しています。児童たちが普段の遊びに英語を加えることで、英語に対する抵抗感をなくし、楽しみながら学ぶ体験内容を実施しています。実施状況としては、実施回数が28回であり、累計705名が参加しています。10ページ目には、児童館児童クラブとの活動の様子を載せてあります。

11ページ目をご覧ください。グローバル人材育成のもう1つの取り組みは、子どもの居場所づくりです。こちらも今年度から取り組んでいる事業です。障害のある子どもが学校と家庭以外の場所で安心して過ごすことができ、そこでの活動が社会参加に繋がる取り組みとして、社会福祉法人睦会と連携し、施設利用者の成長を支援することを目的にしています。実施場所は、障害者支援施設遠野コロニーであり、参加者はせせらぎ利用者9名と、花巻清風支援学校遠野分教室の3名です。講師は菊池健次先生です。開催状況は24回開催で、累計186名が参加しています。活動内容として、芸術に関する取り組みとして、貼り絵、工作、陶芸などに取り組んでいます。

以上で、未来づくりサポート大作戦の実施状況について、報告を終わります。

○市長

はい、ありがとうございます。

担当から説明がありましたが、委員の皆様からご質問やご意見ございましたら、よろしく願います。

Englishキャラバンを行って見ていると、やっぱり遠野の子どもたちは機会があれば発信するし、積極的になってどんどん入ってくるというのはよく分かります。

ですから、そういう場を作っていくことは非常に重要だと思います。さっきの崇委員が言っていたバッティングですね、この発信力をつけて、機会を作ればできているというのは私も見て感じました。非常にいい取り組みになっているという気はしましたけども、皆様から何かもっとこうすればいいよとか、ご意見をいただきたいです。

○菊池和子委員

いろいろな事業が着々と進められているなど感じています。1年で成果を出せとかそういう問題ではないと思うので、やっぱり継続して何年か先にこんなに変わったねというようなことが話題になればいいと思いますので、もし足りないものとか、こうしたいけれど、さっきおっしゃったお金がないとか人がないとか、そういうことでご苦労なさっているのであれば、市民の英知を集めたいなと思いました。

○市長

非常に背中を押していただく言葉でしたが、思い切って、担当からもうちょっとこれがあればとか、もっとお金があればというのは分かっていますけれども、どうですか。

○未来づくりサポート室長補佐

貴重な意見ありがとうございます。

もっとお金があればというよりは、やはり地域の方に放課後学習に参加していただきたいところもありますので、ボランティア参加とか、ご協力いただければ大変ありがたいと思っております。

○市長

地域の方々に参加してもらいたいですね。

他に、ございませんか。

○藤山重理子委員

今、おっしゃられたボランティア会員さんが、実際に小学校で放課後の子どもたちの様子を見た意見などはどういった意見がありますか。

○未来づくりサポート室長補佐

私も何度か放課後学習を拝見させていただいていますけれども、ボランティアの方々、子どもたちの学習に対して、非常に熱い方たちが対応しております。子どもたちの姿勢が素晴らしいとか、そういう意見が多数ありました。

○市長

崇委員、どうぞ。

○菊池崇委員

高校魅力化サポートのところですけども、子どもたちの居場所づくりのところにも若干かぶってくるのかもしれないけども、遠野市内の高校ではない高校に進学する

人たちというのは、なぜ遠野市内の高校に進学しないかという、やはり街並み、魅力ということではないですけど、居場所がない。ずっと前でしたら、ちょっとしたお店さんでお茶飲みながら大判焼き食べるとか、そういうお店がありましたけども、今現在そういったところがない。街中で高校生を見る機会は登下校で歩いているか、サッカー部が自転車で行ったり来たりするとか、そのくらいしか見かけることがない。なので、ここはなかなか難しいかもしれませんが、街中にそういう居場所を作るのも一つですけども、あとは、高校がキャンパスみたいな感じであれば、例えば1人で外でランチを食べても読書してもいいような雰囲気作りだとか、ちょっとした場所、居場所があれば外から来る生徒でもリラックスしていただけますし、そうでなければ雪とか風で列車が止まってしまうと、行き場所がなくて、親に送迎を頼むということになってしまって、やっぱりそういった子供の居場所を積極的に大人が作ってあげるとというのが大事なことなのかなと思ひまして。意見になりますね。

○市長

非常に素晴らしい意見いただいたと思いますが、これこうすればいいんじゃないかとか、伊藤部長。

○教育部長

はい、ありがとうございます。

高校関係のお話でしたけれども、先程説明があったように、来年度は、高校まで公営塾を広げていきたいということで、高校と協議をしております。これは学力の部分ですとか就職の支援の部分がありますけれども、以前に未来づくりサポートの資料お示ししたことがあったと思いますが、できればその公営塾の先に高校生等の居場所として学習支援センターのような形ができていけばいいなという思いはあります。将来的にそういうものができていけばいいなという思いを、担当としては持っております。

また、市内の高校とは協定を結んで、直接、魅力化の主体となります高校の両校の校長先生、副校長先生と協議する場も設けております。

○市長

それに向けて頑張っているということです。
他にございませんか。

○小玉淳浩委員

小学生の放課後学習支援、あと中学生に向けた公営塾、小学生もですね、大変素晴らしい取り組みだと思います。

先ほど、ボランティアの方がもっとたくさんいればというお話でしたが、地域には子どもたちとお話しをしたいとか、触れ合いたいという大人たちが結構いると思います。

先ほどの言語活動じゃないですけども、そういった方々と会話をするということも子どもたちの成長に繋がっていくのかなと思いますし、今どういうアプローチでボランティアさんを募集しているか、ちょっと私はわかりませんが、もう少し周知をして、たくさんの方々にボランティアとして活動していただければいいのかなという意見でございます。

○市長

事務局どうですか、

○未来づくりサポート室長補佐

ホームページや広報等で広く周知をして、地域の方々に積極的に参加していただくよう、取り組んでいきたいと思っております。ありがとうございました。

○市長

いろんな場所でいろんな人と話をするということは多様性という部分、それと言語能力というところにすごく良い影響を与えるのではないかと。教育が学校だけでなく地域になっていく、家庭では少し足りないよというところもありましたから、それを地域全体でもっと興味を持ってもらって、カバーしていくというような形だと思います。

その他、皆さんから何かございませんか。

教育長から、この未来づくりサポート大作戦について、非常に自分が力入れていますが。

○教育長

学習ボランティアの件ですが、私も何回か放課後学習支援にお邪魔していますが、子どもたちとボランティアさんとの関係ですが、非常に友好的だというか、笑顔で勉強を見守ってもらっているという関係なので、非常に関係性がいいと思って見ておりました。

決してギスギスとしたような雰囲気の中じゃなくて、非常に和やかな中で笑いもありしながら学習を楽しんでいるということで、非常に良い関係だなと思いますので、ぜひたくさんの方々にご理解をいただいて、さらに学習ボランティアの輪が広がればいいなと思っております。

○市長

教育長になって、当初予算を初めて組んで挑戦して始まった事業がたくさんあります。これにもっと子どもの教育に惜しまず予算をできるだけかけようという市長部局の熱い思いもここに反映して、何とか皆さんのご協力いただいて進めていますけれども、地域ぐるみ、家庭ぐるみ、学校ぐるみで子どもたちがよく成長してくれるように、みんなでやっていければいいなと思います。

他になれば、「多様な教育活動に関する検討について」に入らせていただきたいと思えます。

その前に総務企画部長、どうぞ。

○総務企画部長

先ほどの居場所というところですね、市役所本庁舎の1階に市民ホールあります。あとは市民ホールの左側に図書コーナーがあります。さらには2階の南側のフレキシブルというオープンスペースがありますが、そこをどうぞ使っていていいですよということで、2階のフレキシブルスペースは夜7時30分まで、1階の図書コーナーは夜9時までには開けておまして、高校生や中学生が1階や2階のフレキシブルを使って勉強しているところも何回か見えています。ただ、我々のPR不足があって、そういうスペースがあることを知っている子は知っているけれども、その辺は反省しつつも、どうぞ使ってくださいというスペースにしておりますので、もしよかったらPRしていただければと思います。

○市長

土曜日など、高校生や中学生が市役所本庁舎の2階を使って、集まっているようです。ロコミをもうちょっとしてもらってみんなが使えるようになっていければいいかなと思います。

それではなければ次に移らせていただいて、「多様な教育活動に関する検討について」、担当から説明をお願いします。

○教育部長

それでは、多様な教育活動に係る検討ということで、私の方から説明させていただきます。

まず1枚ものの、工程の案という資料をご覧いただきたいと思えます。市議会で令和4年度中に、複式学級の解消とか、小学校の規模をどう考えているのかという質問が何度か出ております。現在の総合計画の中では、小学校の統廃合はやらないという位置づけですが、少子化が進んでいるということもあって、教育長は地域や保護者か

ら意見を聞いていきたいと答弁をしておりました。それを受けまして、今回そういう検討に入っていきたいという提案でございます。

実際、小学校区単位で地域に入って、意見を聞きながら、全体の方針案をまとめていきたいと考えておまして、具体的な検討組織を作り、教育委員会での方針の確定などを踏まえて、令和7年度以降にこの取りまとめを行って、第3次総合計画の内容を反映していきたいという思いでございます。

また、あわせまして公共施設総合管理計画、これは学校の施設等の計画もありますので、地域の意見を聞いていきたいということでございます。

本日は、具体的に地域に入ったときに、どういった情報を提供して意見を聞くかということで、別冊の方の資料をご覧いただきたいと思っております。

多様な教育活動の検討について、次のページお願いします。これが概要でございます。検討の背景、状況、国の動向、市の方針、メリットデメリット、そして意見聴取という構成になってございます。

1 ページ目になります。検討の背景でございます。議会からもそういった意見もあって、直接意見聴取をしていきたいという趣旨でございます。そして、子どもの数でございますが、令和4年度の出生数が100人ということで、今後100人を下回るような状況が現実となってまいりました。そういった背景を踏まえて検討を進めていきたいというものであります。

2 ページ目。これまでの児童数の推移ということで平成19年度、これは今の体制になった時、大出小学校が閉校したときの数字と平成25年度の比較、これは今の中学校が3校になった時、10年前の数字になってございます。これらを見ますとだいぶ減少していますし、地域的に偏在があるというところが見てわかるかと思っております。

3 ページ目。将来予測であります。黄色で塗っている箇所、これが複式の部分であります。今後少子化が進んでいきますと、次は土淵、宮守、こういったところも複式が出てくるような状況になってくるというものであります。

4 ページは、国の適正規模適正配置の考え方ということになります。具体的には、12学級以上18学級以下ということで2クラスから3クラスぐらいの構成が標準的だと言われております。

5 ページ目は、小中連携とか小中一貫というふうなものもお示してありましたので、こういった情報も、地域の方々にはお示ししていく必要があると考えております。

6 ページをご覧いただきたいと思っております。現在の市の方針ということで、今の総合計画の中では、現在の11校を維持する、ただし少子化の進行状況を注視するという位置づけになっておりますし、公共施設総合管理計画も同様の方針となっております。

7ページをご覧いただきたいと思います。これは小規模校のメリットデメリット、これは国で示している資料から9項目ずつ抜粋したものであります。

8ページは、こういった状況を踏まえて、意見を聞きたいということで、児童生徒数の考え方、将来どうあればいいかというようなものをいろいろ出していきたいと考えます。考えられるパターンとしては、まずは学校を維持したまま、それぞれの学校間の連携を図っていくような取り組み、1番目に小小連携と書いてありますけれども、オンラインなどを活用する方法もあると思います。2番目には学校統合ということで、複式学級の解消や学年2学級化という考え方もあると思います。3番目は小中一貫や義務教育学校という考え方。4番目は1から3を組み合わせた形、あるいはその学校選択制という取り組みも考えられます。

こういった情報提供しながら、こういった方向性がよいか、こういった意見があるかを聞いていきたいと考えております。実際には新年度になるかと思いますが、それぞれ保護者ですとか、これから小学校に入る保育園とか幼稚園の保護者の方々にもアンケートを取りながら、広く確実に意見を集約して、方針をまとめていくような取り組みの必要があると考えております。

資料の内容について、あるいはその工程について、皆さんからいろいろご意見をいただければと思います。よろしく願いいたします。

○市長

多様な教育活動に関する検討について、説明ありました。

議論を進めたいと思いますが、皆様から忌憚ない意見いただきたいと思います。

計画では11校存続であって、それについての議論の有無云々というのは明確になってないけども、いろんな声を聞くと、皆さん意見ある、そうすると小規模校は小規模校のメリットデメリットがそれぞれありますけれども、その11校にしますよということがありきじゃなくて、もうちょっと自由に意見をいただいた方がいいと私は思います。

11校だよというのと、そうじゃないと思う人は結構声が小さくなってしまったりするので、もっと自由に意見を言い合って、来るべき課題というのは明確になっているわけですから、そこに対して、避けないでできるだけ早くみんなで議論を始めて、次の方向を示していくべきだという考えから、こういうふうなお話をさせていただいておりますので、ここは大事なところですから皆さんから、遠慮なくご意見いただきたいと思います。

○菊池崇委員

この問題はすごく難しい、デリケートな問題だと思います。このままでいいのかどうかという議論は、もちろんしていかなきゃならないことですが、その前に、そ

の地域の子はその小学校に入るといのが前提になっているわけですね。僕が思っているのは、もう少し、そこの選択肢を広げてあげればいいのではないかと考えています。例えば、陸上部がない、陸上できないから、中学校で他の学校に行くという部分とか、その部活動の面でそちらに移るといの子は数名いたりする話は聞いてはいますが、例えば、うちの子はもうちょっと人数いっぱい为学校に行って、いろいろ社会性を学んで欲しいよと、そういう子だよといところはそういう学校に行ってもいいし、もうちょっと小規模校で、小規模校は結構マンツーマンで教えてくれたりするので学力がやっぱり上がる傾向にありますよね。そういった場合は、そちらの学校を選択してもいいとか、そういうところでもうちょっとその選択肢を増やしてあげたらいのではないかなと思っています。そうすると、例えば、児童生徒がいっぱいいるところの子供が小規模校に行って、ちょっと多くなってより社会性が高まることにも繋がりますし、他の子供たち、逆の面、さっき言ったことも起こりうるわけです。だから、その辺のところをもう少し柔軟に考えてみると、例えば、この11校存続であっても、考え方というか、子どもたちの未来がちょっと広がっていくのかなと思います。

実際、不登校で学校に行けていない子供たちが結構おられるわけです。そういった柔軟な姿勢にすることで、その子どもたちが学校に行ける機会も増えてくるのではないかと考えていましたので、ここで喋ってみました。

○市長

ありがとうございます。非常に総括的な考え方で、そのメリットデメリットをお話いただいて、非常にいいご意見だと思いました。今日はその議論を深めるよりは、いろんな考え方を挙げていって、そのいろんな考え方をいただいたことをこれからの議論に役立てて、市民の議論に持っていきたいというようなところだと思いますので、良し悪しじゃなくて、いろんな意見いただきたいと思いますので、よろしく願います。

和子委員、どうぞ。

○菊池和子委員

11校どうするかということの前に、やっぱり市として、それから地域として、学校というのはどういうことなのかということをも十分理解していく必要があるのではないかと考えています。ですので、いろんな議論をするときに、「将来を見据えて学校の規模等を見直すことについてどう思いますか。」といきなり聞かれても、回答に困る方が大半以上いるのではないかと考えています。それは、保護者でなくても一般の方もそういう感じかと思っていますので、いろんな事例を見て、いろんな事例を発信していただいて、これから、例えばこんなことをしている市がありますよとか、こんな学校もありますよとか、やっぱりそういう情報をきちっと提案していくことが必要じゃない

か思っています。そのために、視察に行ったり情報を取り寄せたりと、いろんな勉強するにはお金がかかるかもしれませんが、市民のいろんな層の方がいろんな情報を持ってきて、それを持ち寄って、例えば、小中一貫義務教育学校なんていうのは珍しいですよ。大槌でやっていますが、そういうことをきちんとみんなで共有できる時間が欲しいなど。そういう共有する時間があるって、その上でこういうことについてはどう思いますかという議論を深めていければいいなと思っています。

○市長

意見の集め方という部分、誘導型ではなくて、いろんなメリットとかデメリット、あとは例とかを出して、皆さんに考えてもらいやすくしていった方がいいなど。本当にその通りですよ。

聞き方というのは非常に重要だと思うので、委員会の中で相談して、どういうふうな聞き取り方をしていったらいいだろうかというふうにしていくのは非常にいいことだと思います。

藤山委員、どうぞ。

○藤山重理子委員

小学校において、子どもの教育を支える大事な施設になっているのですが、やっぱり子どもにとって、同世代の友達と遊びの中にも教育というか、人間性を学ぶ重要な時間でもあると思うので、時にはそういった友達との和の交流、関係性が広がって行って、自分の感情をコントロールすることを学ぶ機会というのもすごく重要じゃないかと思います。

なので、ただやはり学力向上というのは、市の方針の中にも求められている部分でもあるので、やはり子どもにとっては、教育環境の改善というのも将来的に必要なところではあると思うので、そういった教育環境の改善ということも十分考慮しながら進めていけたらいいなと思います。

○市長

藤山委員の教育環境というところ、もう一歩進んで何かちょっと例えばみたいなご意見あれば、お願いします。

○藤山重理子委員

少人数でやっぱり良い面としてきめ細やかに1人に与えられる時間、先生と関わる時間がすごく密状態で、逆に大人数だと先生が1人にかかる時間というのはどうしても限りはあると思うのですが、教育環境ということで、ある程度少人数でも大人数でもある一定の学力のレベルを保つことができるように、例えば体育とかそうい

ったところは小規模校同士、集まって行動出てきたりとか、音楽とかができたりとか、算数・数学とか理科とか、そういうのは小規模校のまま維持できたりとか、そういうケースバイケースで対応していくことも一つはいいのかと思います。

○市長

学校の校区の枠を外して柔軟にといった環境も必要じゃないかということですね。
小玉委員、よろしくお願いします。

○小玉淳浩委員

小規模校のメリットデメリットはあると思いますけれども、やはりいいところもあると思います。先生がマンツーマンじゃないですけども、密接に子どもたちと接することができるというところはいいところだとは思いますが、やはり限られた人数でできないこと、やりたくてもできないことというのは当然出てくると思います。さっき藤山委員が言った通り、教科あるいは活動ごとに、他の学校と合同でやってみたり、あるいは小規模校だけで活動したりという考え方もあるのかと思っています。ただ、やっぱり、中学校3校に統合してやっていますけども、中学生ぐらい体力があると多分大丈夫だと思えますが、大出あたりから来ると、多分40分50分、片道かかると思いますが、それは、小学校低学年には厳しくなってくるのかと考えたりもしますし、いずれ、子どもたちを中心に、ベストという回答は出ないかもしれませんが、なるべくベターな意見というか、子どもたちの環境を作れるように、我々大人が意見を出し合ってこれから考えていけばいいのかなと思いますし、あとはこれから小学校に入学させる保護者の方たちの意見ももちろん取り入れながら検討していけばいいのかなと思っています。以上です。

○市長

皆さんからご意見いただいて、なるほどと思ったところもあると思います。
何かちょっと言い忘れたっていうところありませんか。
崇委員、いかがですか。

○菊池崇委員

まだそういう段階にも達してないからこういうことを言うのはどうかと思うのですが、何々学校、何々小学校にこだわることなく、遠野の小学校、遠野の中学校ということで、近い人は近いところ、でも今日は体育があるからあっちの学校とか、そういう総合的に考えた時に、その小学校だけじゃなくて、1校、2校、回れるような、そうやって6年間過ごせるようなシステムがあれば、法整備とかいろいろ難しいところあるかもしれませんが、何かちょっと窮屈なような気がして、ここの学校行ったらこれ

ができるけどあれができない、あっちだとできるのにとか。そこは、今、親も結構送り迎えとかするので、ただ毎日は難しい。そういうところでタブレットもありますし、そのへんのフォローアップとか、そこを詰めていけば、もしかしてできるのではないかと、今、思ったので言ってみました。

○市長

今のご意見のところを掘り下げていくと、家庭での環境とか、家庭の協力とか、家庭のその情熱とかというあたりも非常に重要になってくるのかなという気もしましたね。

いろいろご意見いただきました。教育長に今のところの感想なり、また教育長のその意見も交えて聞きたいところですよね。

○教育長

今年、鱒沢小学校にアメリカからの転校生が2人入りました。鱒沢小学校に入った経緯は、市内のいろいろな学校を見たけども、やはりうちの子どもたちには小規模の学校で学ばせることが非常に良いのではないかと親御さんが判断して、最終的には鱒沢小学校に入れたということでした。ということで、やはり親の判断というか、そういう親御さんもいるということは現実的なことだと思いますが、選択制にしてしまうと、もし児童が入らなかったら、県費職員なので、先生がつけられないという、非常にそのあたりの法的な部分を変えていかないと、非常に難しいところかなと思うところもありますが、現実的にこれから子どもたちの数がどんどん減っていくのは目に見える事実でありますので、やはり、子どもたちの事を第一に考えて、将来、遠野の子どもたちが自分の夢や希望を実現できるような学びの場を、私達が考えて作っていってあげるのが、私達大人の役目だと思っています。

やはり、子育て世代の声も大切だと思いますし、中学生や高校生の子どもたちの声もやはり聞いて、将来自分が親になって、遠野に戻ってきた時にどんな学校であれば、自分の子どもを遠野の学校に入れられるかというあたりも子どもたちの素直な気持ちも聞いていきたいところだと思っています。

学校は、決して学習だけを学ぶ場ではないと思います。一番初めに子どもたちが会える小さな社会、コミュニティだと思っていますので、そこではやはり失敗もありますし、社会性も学びますし、友達との関係とか、いろんなことを学ぶ場が学校だと思っていますので、そういう場を子どもたちに提供しながら、将来的には、子どもたちが1人で生きていく力をつけてあげるのが最終的な学校の大きな目標ではないかと、私は思います。

○市長

これに限らず、残り時間も少なくなりましたので、皆様から何かご意見等あればいただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

このグローバル人材育成のところでこの絵がありますよね。ひまわりの絵ですよね。これ非常にいいなと思って見っていますが、この子どもたちが作った絵を、例えばあえりあ遠野であるとか、とぴあであるとかに展示していくとかですね。このデザインをプリントした、例えば、ベッドカバーにするとかですね。そういう活動をお知らせして、絵とかね、いいですよ。非常にもっともっとお知らせしていきたいと、活躍できるようにしていきたいと私は思いました。

皆さんなければ、事務局の方からお知らせと何かありますか。事務局にお返ししたいと思います。

なければこれで報告と協議は終わらせていただきまして、議長の進行役の人を降りたいと思います。事務局にお返しします。

○教育部長

ありがとうございました。

先ほど菊池和子委員からありました通り、もう少し具体的な事例を情報としていただきたいというお話がありましたので、そのへんは事務局でもいろいろ対処してまいりますし、場合によっては実際見ていただくような機会も検討していきたいと思ってございます。

それでは、以上をもちまして令和5年度第1回遠野市総合教育会議を閉会といたします。大変ありがとうございました。

閉会 午前11時13分

会議録作成者 遠野市長 多田 一彦

署名 教育長 佐々木 一人

署名 教育委員 菊池 崇

署名 教育委員 菊池 和子

署名 教育委員 藤山 重理子

署名 教育委員 小玉 淳浩